

蜂（スズメバチ）に注意しましょう！

北海道では、スズメバチに刺される被害は8月から9月にかけて集中して起こりますが、今年は気温の上昇が早く、すでにハチの巣駆除の問い合わせが例年より多くあることから、注意いただきたいことをまとめてみました。

スズメバチの習性を理解のうえ行動し、被害防止に努めるとともに、蜂の巣を見つけたときや刺された場合は、次のとおり適切な対応を行なってください。

■蜂に刺されないための防止策として

蜂に刺されないためには、まず、巣を見つけたら絶対に近づかないことです。巣が見当たらなくても、スズメバチを頻繁に見かけるような場所は、近くに巣がある可能性が高いので、近づかないようにしましょう。

また、一匹のスズメバチがゆっくりと飛んでいるときは、餌を探している場合が多く、このような時は黙って放っておくと、やがてどこかに飛び去っていくことが多いようです。

このことから、夏から秋にかけて農林作業や野外活動を行う際は、スズメバチに突然遭遇する危険性があることを念頭に置いてください。

身の回りに飛んできた蜂に手出しをすると、興奮して刺される危険性がありますので、緊急事態に備え市販殺虫スプレーや抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏を携帯するのも良いでしょう。

スズメバチが人を刺すのは、産卵や餌を得るためではなく、蜂自身や巣を守るためです。

軒先などで、日常活動でスズメバチの巣があることに気付かずに、近くで大声を出したり、強い振動を与えると、巣の中にいた蜂が刺激を受けて襲ってきます。

針は、毒囊という袋につながっていて、刺すと毒液が出てくる仕組みになっています。

もし、野外活動中に蜂に遭遇したときは、頭（黒色）を隠し姿勢を低くして、ゆっくりとその場を離れてください。

蜂の攻撃を受けたときは、手やタオルなどで払うのは危険であり、蜂は前後の動きは鈍感ですが、左右や急激な動きには敏感です。

黒い色に反応して攻撃するため、野山に出かけるときには白など明るい服装の方が安全度は高く、ヒラヒラするもの、香水、ヘアスプレーなどは蜂を刺激する原因となるので控えてください。

■蜂に刺されたときの対処策として

蜂に刺されると、誰でも刺されたところが痛み、腫れてしまいます。ところが、人によっては吐き気したり発疹が出たりすることがあります。また、息苦しくなったりして、時には生命さえ危険な状態になる場合もあります。これは、一種のアレルギー反応によるものです。

以前に蜂に刺されて蜂毒に対する抗体を持っている人が、二度目三度目に刺されると、過敏な反応が起こり、上記のような症状を引き起こしてしまうので、このような場合は、早急に医師の手当を受ける必要があります。

刺傷後の対応としては、毒液による痛み、腫れ、患部の炎症、かゆみ、体温の上昇などが、刺傷後10～15分後に発現しますので、患部からの毒液除去を行うため、できるだけ速やかに毒液を口あるいは市販の器具を用いて吸い出してください。

治療としては、患部の腫れや痛みには冷湿布で患部を冷やし迅速に病院で手当を受けてください。

■蜂の巣駆除の問合せ

駆除を依頼したいときは、有料となりますが、南富良野町高齢者事業団（☎52-2737）へ直接お問合せください。

又、不明な点などがありましたら、役場建設課環境衛生係（☎52-2179）へ問合せください。

知っていますか？道の「苦情審査委員制度」

道がおこなった業務や制度の内容を審査する制度が「北海道苦情審査委員制度」です。皆さんに代わって、苦情審査委員が中立的な立場で、道の機関に対し、必要な調査等を行います。審査の結果、道の業務に不備な点や制度に問題があるときは、道の機関に是正や改善を求めます。審査の結果まではおよそ2ヵ月です。皆さん自身の利害にかかわる苦情であれば、苦情審査委員に申立てができます。個人情報の保護にも十分配慮します。

①苦情申立の窓口は、道庁の道政相談センターまたは上川総合振興局の道政相談室へ、リーフレットも用意しています。

②北海道のホームページからも申立書をダウンロードできます。

③申立て方法は、苦情申立書に苦情等を記載し、郵送、ファックスまたはメールで。

○問い合わせ先：北海道総合政策部知事室道政相談センター ☎011-204-5523